春まき夏秋どりねぎの作型と育苗法

（園試　野菜花き部）

1．背景とねらい

夏秋どりねぎは高温期を経過する栽培となるため、品質が低下しやすく、生産量も全般的に少ない作型である。一方、この時期は販売価格が安定していることから有利販売ができ、本県の夏期冷涼な立地特性を活かせる品目・作型でもある。

そこで今回、８～９月どりをねらいとした春まき夏秋どりねぎの作型開発と育苗法について検討した結果、成果が得られたので参考に供する。

2．技術の内容

1）作型

(1) ９月どり作型における作期は下表のとおりである。

は種期	定植期	収穫期
２月下旬	５月下旬	９月上旬
３月上旬	６月上旬	９月中旬
３月中旬	６月中旬	９月下旬

2）育苗法

(1) 育苗法はトンネルを併用したハウス育苗とし、春まきとする。これに発芽時までトンネル内に通気性被覆資材のべたがけをすることにより発芽勢が高められ、苗の揃い・苗質が向上する。

(2) 定植苗は葉鞘径が0.5～0.9㎝、葉数が３～４枚程度の苗を使用する。このことにより、ａ当り 400kg以上の収量が確保される。

3）適応地域　県中南部

3．指導上の留意事項

1）作型

(1) 本作型では夏期高温条件で下でも生育が早く、収量・品質が安定している「吉蔵」を使用する。

(2) ＬＭ中心出荷を目標とした場合、２月まきで８月下旬の収穫が可能である。

2）育苗法

(1) ハウス育苗に伴う苗の徒長防止のため、以下のことに留意する。

① 条間は慣行よりやや広めの８㎝程度のすじまきとし、本葉１～２枚時に株間２～３㎝に間引く。

② 育苗期間中のかん水は、は種・覆土後十分に行い、その後苗床表面が乾燥した場合晴天日の午前中に少量かん水し苗の徒長を防止する。

(2) トンネル資材として天井開閉換気型フィルムを使用し、換気作業の省力化を図る。

4．試験成績概要

1）試験方法

(1) 供試条件

① 作型　は種期　2月20日，3月1日，3月15日

② 育苗法

ア．保温法

区　　名	具体的方法
a．二重被覆区	天井開閉換気型フィルム＋シルバーポリ（夜間）
b．二重被覆＋べたがけ区	a＋通気性被覆資材を発芽時までべたがけ
c．三重被覆＋べたがけ区	b＋通気性被覆資材を内部トンネル

イ．苗質　大苗（葉鞘径 0.7～0.9cm）　3月1日は種　6月1日定植

中苗（　〃　0.5～0.7cm）　9月20日収穫

(2) 耕種概要

① 供試品種：吉蔵

② 施肥量(kg/a)：育苗床　N－0.85　P_2O_5－0.85　K_2O－0.68

本　畑　N－0.8+1.5　P_2O_5－0.8+0.4　K_2O－0.8+1.5

③ 栽植様式：うね幅90cm　株間4cm　2,777株/a

2）主要な試験データ

表－1　は種期別収量および規格別割合

は種日	生葉数	軟白部(cm)		調整重	a収量	規格別割合					
	(枚)	長	径	(g)	(kg)	3L	2L	L	M	S	分けつ
① 2/20	6.0	33.8	1.75	167.2	464.3	0	34.6	40.5	24.9	0	0
② 3/ 1	5.1	32.0	1.66	127.6	354.3	0	20.0	52.0	28.0	0	0
③ 3/15	4.7	34.9	1.93	145.1	402.9	8.2	46.9	36.7	8.2	0	0

表－2　育苗時の保温方法および苗質の違いによる収量および規格別割合

育苗の保温		苗質		調整重	a収量	規格別割合			
		葉数	葉鞘径	(kg)	(kg)	2L	L	M	S
a．二重被覆	大苗	3.7	0.07	140.0	388.8	10.7	57.1	28.6	3.6
	中苗	3.3	0.64	137.2	381.0	12.5	66.7	12.5	8.3
b．二重＋べたがけ区	大苗	3.7	0.70	162.1	450.2	24.0	68.0	8.0	0
	中苗	3.3	0.62	152.4	423.2	15.8	69.2	15.0	0
c．三重＋べたがけ区	大苗	3.5	0.73	150.0	416.6	12.0	68.0	20.0	0
	中苗	3.4	0.65	148.5	412.4	13.6	67.4	19.0	0